

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2011	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
9	こどもの情景 —こどもを撮る技術 7月16日(土)～9月19日(月・祝)	江成常夫写真展 ～昭和史のかたち～ 7月23日(土)～9月25日(日)	鬼海弘雄写真展 東京ポートレイト 8月13日(土)～10月2日(日)	『マイブリッジの糸』 9月17日(土)～10月7日(金)
10			第22回日本写真作家協会会員展 第9回JPA公募展 10月8日(土)～10月23日(日)	 『第2回東京ごほん映画祭』 10月8日(土)～10月23日(日)
11	こどもの情景 —原風景を求めて 9月24日(土)～12月4日(日)	畠山直哉展 Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ 10月1日(土)～12月4日(日)	写真新世紀 東京展 2011 10月29日(土)～11月20日(日)	 『僕たちのバイシクル・ロード ～7大陸900日～』 11月3日(木・祝)～
12				 ©ORF Ali Schaller ウイーン・フィル&ティレマン ベートーヴェン全交響曲 シネコソート 12月10日(土)～12月28日(水)
2012	ストリート・ライフ ヨーロッパを見つけた7人の写真家たち 12月10日(土)～1月29日(日)	日本の新進作家展vol.10 写真の飛躍 12月10日(土)～1月29日(日)	映像をめぐる冒険vol.4 / 見えない世界のみつめ方 12月13日(火)～1月29日(日)	『今日と明日の間で』 2012年新春
1	第4回恵比寿映像祭 2月10日(金)～2月26日(日)			
2			APA展 3月3日(土)～3月18日(日)	
3	幻の写真家・堀野正雄展(仮称) 3月6日(火)～5月6日(日)	フェリーチェ・ベアトの全貌(仮称) 3月6日(火)～5月6日(日)	ロベール・ド・アノー展(仮称) 3月24日(土)～5月13日(日)	
4	※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。			

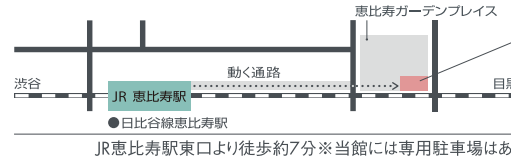
ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)
12月5日～12月9日、年末年始(12月29日～2012年1月1日)、
2012年1月4日、2012年1月30日～2月9日、2月27日～3月2日
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) ただし、2012年1月2日・3日は11:00～18:00
入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売 お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。

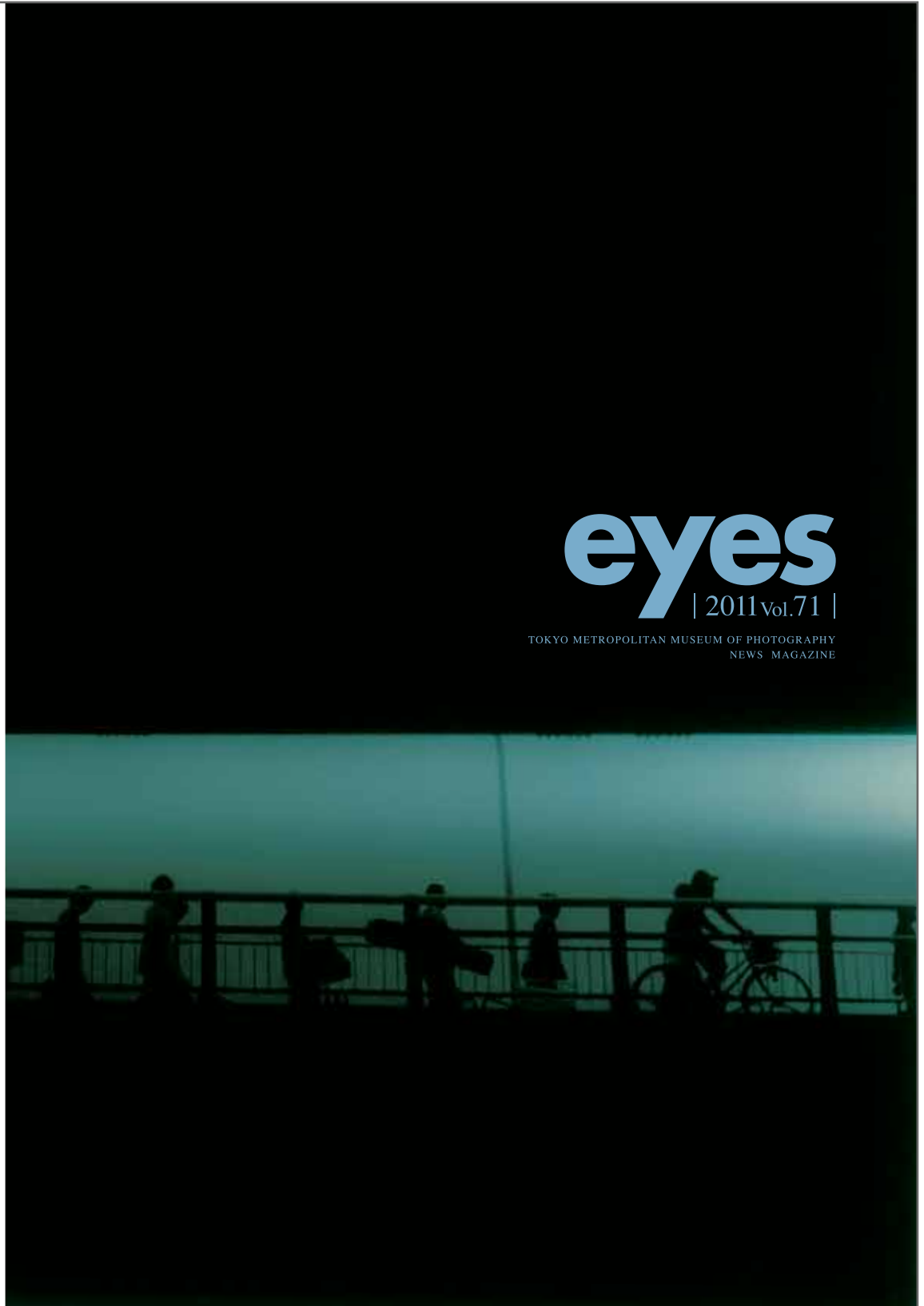
東京都写真美術館 携帯サイトはこちら

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
<http://www.syabi.com>



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ11」71号 ●発行日：2011年9月16日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2011 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes

| 2011 Vol.71 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE

写真の飛躍

あなたがしているものは、隣で見ている人と果たして同じでしょうか。私たちは目に見えるものを安易に信じすぎてはいませんか。

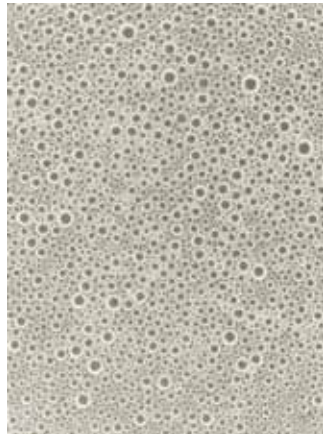
今年で10回目を迎える「日本の新進作家展」では、私たちの「見る」という行為そのものを再考するきっかけを与えてくれる作品をご紹介します。いずれの作家も一見、「これが写真だろうか」と思うような作品を制作しています。しかし、だからこそ私たちは受動的ではなく自発的に写真と出会い、自らに引き寄せて考えることができるのです。

添野和幸はフォトグラムという写真構造の中でも最もシ

ンプルな技法を用いて、ビールの泡、ウイスキーと氷といった嗜好品、時には自分の人生を支えてくれる身近な存在を視覚化します。この作家は自身、生死の境をさまよったことがあり、そのせいもあって、刻々と変化していずれ消え去るものの存在を残すことをとりわけ大切に考えています。

西野壮平もまた、日々変化する都市を作品にしています。彼は自らの足で歩いた都市をその記憶と共にカラーージュして、独自の地図を制作します。街中のさまざまな場所から撮られた写真には、その土地の歴史はもちろんのこと、その時その場を訪れた作家の経験や偶然の出来事など、さまざま

©kazuyuki soeno



《AW 01》(ビールの泡)、2004年



《WI 02》(ウイスキーオンザロック)、2004年



《WI 07》(ウイスキーオンザロック)、2004年

添野 和幸 (そえの かずゆき)

1968年神奈川県生まれ。1991年東京造形大学造形学部卒業後、92年同研究生修了。2002年「コニカフォトプレミア 24人の新しい写真家登場」に選出。2005年資生堂第12回ADSP授与。2008年フォト・ギャラリー・インターナショナル等の個展では昆虫の翅を引き伸ばし機に仕掛けて制作する作品を発表。「第5回造形現代芸術家展 Transmutation」(東京造形大学付属美術館)等グループ展多数。

水は様々に変化する。雨に川に海に、雪に氷に、そして酒や鏡にもなる。光を捉える可能性を秘めている。

晩酌で眺めるビール。ウイスキーに浮かぶ氷は美しい。光に翳すと更に美しい。

硝子器にその液体を注ぎ、引伸機の中へ、そっと入れてみる。

平面と捉えられるフィルム。そのミリ単位の厚みは液体へ置き換えられ、焦点により様々な表情を見せる。

時間の経過と共に、泡が弾け、氷が溶け、硝子に滴が付く。

引伸機の中に「時間、生、死」を内在する世界が現れる。

Soeno Kazuyuki

な現実が数ヶ月もかけて再構築されます。

北野謙は人の存在に迫ります。ある場所で特定の人々を撮影したネガを多重露光で何重にも焼き込んだ、全体にぼんやりとした人物像を前にすると、私たちはその人たちの属性やそれらに対する「認識」と自ずと向き合うこととなります。

では、私たちの認識や記憶というものは、どのように形成されるのでしょうか。佐野陽一のピンホールカメラでぼんやりと写し出される作品は、現実が視覚化されて私たちの記憶となる最初のイメージ、記憶の構造を思い起こさせます。光そのもの、色そのものが記憶の層をつくる瞬間の、しかし、ぼんやりとした視覚です。

そして、春木麻衣子は見ること自体を問題にします。じつくり目を凝らさないと細部が見えない暗がりの作品や、逆に溢れる光の中でようやく見えてくる街並みや人の影と対すると、私たちが日常あたりまえのように「見えている」と思っている、その行為自体を問われているようです。

いずれの作品も写真の根源的な手法や特性—光、時間、記憶、記録など—に立ち戻りながら新たな写真の可能性を探っています。そして何よりも、作品を見る私たちのありようを問いかけているのです。これらの作品を契機に、私たちが受け身になることなく写真と対し、自らの記憶や認識を日々再考してゆくことができれば、写真というメディアは新たな飛躍の時を迎えられるのではないのでしょうか。

シリーズ(Diorama Map)より
《Rio de Janeiro》2011年3月-7月
©sohei nishino ※図版上は部分

西野 壮平 (にし の そうへい)

Nishino Sohei

1982年兵庫県生まれ。大阪芸術大学在学中から記憶をテーマに、(Diorama Map)シリーズの制作を始める。2005年、キヤノン写真新世紀 優秀賞(南條史生/現森美術館館長)受賞。2011年個展(Michael Hoppen Gallery)、10年テグ写真ビエンナーレ(韓国)、12年 Helsinki Photography Festival(オランダ・予定)等出展。

数千枚の写真のピースを、巨大なキャンパスの上にその一枚一枚を地図に即して張り合わせ、街を再構築していく。

そこに現れるのは、決して正確な地図ではなく、あくまで旅の視点で見た私自身の“記憶”そのものである。

学生の頃に歩いた四国のお遍路道が写真を始めるきっかけとなり現在に至るまでそれを続けているということ、改めて感じます。

歩のない将棋は負け将棋と言いますが、歩くという行為の中で気づかれる様々な発見を、私は生涯かけて取り組んでいきたいと思えます。



北野 謙 (きたの けん)

Kitano Ken

1968年 東京都生まれ、91年 日本大学生産工学部卒業。93年 個展「溶游する都市」(I.C.A.C. ウェストンギャラリー)、96年「ヤングポートフォリオ展」(清里フォトアートミュージアム)等。2006年 個展「our face」(フォト・ギャラリー・インターナショナル)、グループ展「写真の現在」展(東京国立近代美術館)、10年個展「our face」(北京市三影堂撮影芸術中心)。2007年 日本写真協会新人賞受賞、11年第14回岡本太郎現代芸術賞特別賞受賞等。

〈存在について考えること〉が僕の仕事だと思っています。世界各地を訪ね撮影した、たくさんの肖像を1枚の印画紙に一人ずつ重ねて焼き付ける肖像写真を制作しています。〈見知らぬ他者をイメージすること〉は写真に備わった本質的な機能で力です。肖像は等身大が望ましい。今では日本で制作が難しいラージサイズの銀塩プリントを昨年中国で制作しました。142×178cmの印画紙に数百プロセスにもなるプリント作業です。たくさんの存在が集積したイメージをじっくり見てください。

〈our face〉より〈アニメのコスプレの少女たち34人を重ねた肖像／台北のストリート〉 2009年(2010年プリント) ©Ken Kitano



春木 麻衣子 (はるき まいこ)

Haruki Maiko

1974年、茨城県生まれ。玉川大学在学中(95-96年)よりUniversity of Londonに交換留学。主な個展は2004年「雨」、05年「yell」(TARO NASU、東京)、06年「●○」(NADiff、東京)、2010年「Possibility in portraiture」(TARO NASU、東京)等。グループ展は06年「VOCA展2006」(上野の森美術館、東京)、「On Recent Landscape」(PHotoEspana06)等。07年「六本木クロッシング2007・未来への脈動」展で特別賞受賞。

あたりまえだけれども、「想像」は作家の専売特許じゃあない。観者も「想像」するからこそ、写真とか作品が生きるのだと信じています。観ることと撮ることに自由にまつわる絶妙!で魅了的!!な想像を写真にしたい。そして、それが日常をほんのすこしでもドキドキさせるシカケになれば嬉しいです。



〈either portrait or landscape 1A〉、2007年 ©Maiko Haruki Courtesy of TARO NASU *表紙は部分

日本の新進作家展 vol.10 写真の飛躍

12月10日(土) → 2012年1月29日(日) 1月2日・3日は年始特別開館

2階展示室 | 友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
□ 協賛：株式会社資生堂／東京都写真美術館支援会員 他

今年で第10回を迎える「日本の新進作家」展は、写真の根源的な手法や特性—光、時間、記憶、記録など—を表現にとりいれて、視覚を通して様々な事象を探ろうとしている5人の作家をご紹介します。

写真が発明されてから170年が過ぎ、21世紀に入ってからデジタル技術の発達が目覚ましく、想像できる画像は全て手に入れることができる時代になりました。しかし想像上の画像には限界があります。より複雑で数多の想定外のことが起きる現実と向き合うためには、あらゆる角度から多面的なアプローチで、五感をとぎすませて何よりも目の前の事象と対することが必要です。

本展覧会では、現実と私たちの間を行き来しながらつくられるイメージや記憶、もしくは視覚そのものから得られる感覚といった、言葉では表しにくいものを写真の本質的な特徴を追求しながら表現し、私たちの認識や感覚をより覚醒させてくれる作品を制作している作家たちに焦点をあてます。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~ ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

※展覧会関連イベントを予定しています。 ※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

※出展作品や事業詳細はやむを得ない事情で変更することがございます。予めご了承ください。

佐野 陽一 (さの よういち)

Sano Yoichi

1970年東京都生まれ。1994年東京造形大学造形学部卒業。1996年同研究生修了。2004-05年文化庁新進芸術家国内研修員。「世界を知覚する手がかりとしての写真」をテーマに作品を展開する。アユミギャラリー、ツァイト・フォト・サロン、switch point等で個展開催。「VOCA展2004」上野の森美術館、他グループ展多数。現在、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科非常勤講師。

自作を一言で表すとしたら、写真に内在するモチーフを純粋な手法でいかに豊かなイメージをつくるのが出来るのか、となるでしょうか。光の現象によって成り立つ写真をピンホールの原理を頼りに、様々な局面を印象のまま止めようとする。そこに興味を向けさせるのは、写真表現そのものであるのかも知れません。覚束ないことばかりでも、さびれた駅の案内図で見つけた目的地で、偶然に身を任せて写したイメージが抗いようもなく美しいと感じることが確かにあるのです。



〈flow〉(水面、木の反映)、2010-11年 ©yoichi sano

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

10月1日(日) → 12月4日(日)

島山直哉展 Natural Stories

ナチュラル・ストーリーズ

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※10月1日(都民の日)は入場無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社 □ 助成：芸術文化振興基金
□ 協賛：ニコン／ニコンイメージングジャパン／東京都写真美術館支援会員 □ 協力：DNPアートコミュニケーションズ／
タカ・インシギヤラリー □ 後援：サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI EXPRESS



ヴェストファーレン炭鉱/II アーレン #00276 2004



テリル #06409 2009

当館では、日本を代表する写真家の一人として海外にも広く紹介されている島山直哉の個展を、首都圏の美術館として初めて開催します。現在まで島山は、石灰岩や石炭といった鉱物資源に関わる工場や鉱山、その跡地などを捉えたシリーズを制作してきました。そこには、普段あまり人が見ることのない、壮大で、時には畏怖を感じさせるような光景が写し出されています。今回は「Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ」と題して、「ライム・ヒルズ」「Ciel Tombé(シエル・トンベ)」のほか、国内初展示の「Terrils(テリル)」、映像による「BLAST(ブラスト)」の展示など、自然と人間との関わりを改めて俯瞰するような作品を中心に、代表作から初公開の新作・新作まで約135点を展覧。“自分の外の世界を再構成する”という考えの実践から、カメラ・オプスクラを使って作家自らが描いたドローイングも展示します。また、島山が生まれ育つ

た岩手県陸前高田市を捉えた作品も展示。自然の美しさだけではなく、時には不条理で厳しさも突きつけられるような今回の作品展は、自然と人間が長い年月をかけてどのように共存し対峙してきたかを考えるきっかけになるでしょう。

✕ 作家とゲストによる対談

① 島山直哉×大竹昭子(文筆家)
日時:10月2日(日) 15:00~16:30(定員50名) 会場:2階ラウンジ

② 島山直哉×池澤夏樹(作家)
日時:10月25日(火) 18:30~20:00(定員190名) 会場:1階ホール

※展覧会チケットの半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます
※当日午前10時より1階受付で整理券を配布します(整理番号順入場、自由席)

✕ 作家によるフロアレクチャー

10月7日(金) 18:30~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

✕ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第1・3全曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

9月24日(日) → 12月4日(日)

平成二十三年度 東京都写真美術館コレクション展 こどもの情景 原風景を求めて Photographs of children - The child within us

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※10月1日(都民の日)は入場無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：株式会社講談社



写真家たちはこどもの集まる場所に引き寄せられ、遊びに夢中になるこどもの姿、その純粋な表情や瞳の輝きに魅了されます。被写体としてのこどもは、生のエネルギーであり、写真家の撮影意欲や想像力を触発するのです。撮影した時代も場所もさまざまな「こどものいる情景」は、いくつもの共通する感覚や感情でつながっています。そこに写る見知らぬこどもの姿、知らないはずの光景に、懐かしさを感じるのはなぜでしょうか。私たちはそこに自分自身のこどもの頃の記憶や、こどもと過ごした思い出を重ねているのではないのでしょうか。

本展は当館の収蔵作品より、こどもの世界をとらえた約140点の名品を18の「情景」に分類して展示します。たくさんの情景のなかを旅するように会場をまわってみてください。そこでは、あなた自身の分身と出会い、忘れてしまった風景を見つけることができるかもしれません。こどもをめぐる写真表現をたどることは、心の原風景をさがすことでもあるのです。

≫ 主な出品予定作家

土門拳、木村伊兵衛、田沼武能、奈良原一高、長野重一、石元泰博、森山大道、植田正治、ジャック・アンリ・ラルティエ、W. ユージン・スミス、東松照明、川内倫子、須田一政、川田喜久治、オノデラユキ ほか

✕ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4全曜日 16:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 |
- 1) 大島洋 幸運の町-2大迫 1979年
 - 2) 須田一政「風姿花伝」より 秋田・湯沢 1976年
 - 3) 奈良原一高 ポケット東京81 1993-1996年
 - 4) 植田正治「白い風」より1981年
 - 5) 石元泰博 子供#163 1953-1957年
 - 6) マーティン・ムンカッチ タンガニーカ湖の波にかけよる少年たち 1930年頃

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

12月10日(土) → 2012年1月29日(日)
1月2日-3日は年始特別開館

ストリート・ライフ

ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち

□ 一般 600(480)円 □ 学生 500(400)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館

本展では、当館で2004年に開催した「明日を夢見て～アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー」展のヨーロッパ版となる展覧会として、イギリス、ドイツ、フランスで19世紀後半から20世紀前半に展開したソーシャル・ドキュメンタリー写真に焦点をあてます。

ヨーロッパでも社会改良の手段としての写真は見られましたが、国家プロジェクトのキャンペーンなどによって、ソーシャル・ドキュメンタリー写真が有効に機能したアメリカとは異なる展開を見せました。ヨーロッパでは近代化に伴い急速な変化を遂げる都市のすがたを記録として残そうと、消えゆく街角や生活風景などが記録されました。そうした都市風景の記録写真は、失われていく歴史を後世に伝えるために写し留めています。

当時の時代背景や地域性に目を向けながら、記録精神が紡ぎ出したヨーロッパのソーシャル・ドキュメンタリー写真の優れた感性や創造力を、この分野のパイオニアであるトーマス・アナン、ジョン・トムソン、ビル・ブラント、ブラッサイ、ウジェーヌ・アジェ、アウグスト・ザンダー、ハインリッヒ・ツイレの7人の写真家たちの作品から見ようとするものです。

- *1) ビル・ブラント イースト・エンド 1937年
- *2) アウグスト・ザンダー 若い農夫たち 1914年
- *3) トーマス・アナン 袋小路 118番、ハイ・ストリート 1868-77年
- *4) ジョン・トムソン ロンドンの遊牧民 1877-78年
- *5) ハインリッヒ・ツイレ 荷車一杯の木を選ぶ2人の女、ハーブスト 1898年
- *6) ブラッサイ ベイ・ブイエールの人混み、モンバルナス 1932年
- *7) ウジェーヌ・アジェ 金の十字架、サン＝タンダル＝デ＝ザール街54番地 1900年9月



ビル・ブラント(1904-1983)

ドイツ生まれ。マン・レイの助手をつとめたことによるシュルレアリスムの影響から、独自の表現スタイルが特徴的なヌードやポートレート写真などが有名だが、1930年代には、イギリス人の社会生活を記録して『イングリッシュ・アット・ホーム』として発表する。



トーマス・アナン(1829-1887)

イギリス生まれ。1868年、グラスゴー市からの委託により、再開発計画の一環として壊される前の建築物や街頭の風景を記録する。そのなかで捉えられた貧しい居住者たちのすがたは、ジェイコブ・A. リースのニューヨーク、スラム街のドキュメンタリーとの類似性を見出すことができる。

アウグスト・ザンダー(1876-1964)

ドイツ生まれ。あらゆる階級や職業のドイツ人を記録し、社会構造を見ようとする壮大なプロジェクトを手がけ、その一部を1929年に発行された『時代の顔』として刊行する。36年、ナチスに押収されるが、幸運にも消失を免れたネガからのプリントと撮影が戦後も続けられた。



ジョン・トムソン(1837-1921)

イギリス生まれ。1860年代から70年代前半にアジアを旅し、その異文化を記録する。イギリスでの国民生活の様々な問題が社会問題として認識されはじめた70年代中頃には、ロンドン市民の暮らしを撮影し『ストリート・ライフ・イン・ロンドン』としてまとめた。社会改良のドキュメンタリーの先駆けとなる。



ハインリッヒ・ツイレ(1858-1929)

ドイツ生まれ。ワイマル政権下の市民生活を風刺したリトグラフなどが高く評価される。写真を始めたのは1880年代末頃で、画家としての主題を、都市の社会条件に向け始めた時期と重なる。作品には社会の弱者たちに対する優しい視線が流れている。



ブラッサイ(1899-1984)

ハンガリー生まれ。1932年に『夜のパリ』として発表された写真集は後世の写真家たちに多大な影響を与える。マグネシウム・フラッシュを多用して魅力的なパリの生活の光と闇を捉えた。ビル・ブラントは、このシリーズに触発され『ナイト・イン・ロンドン』を制作している。



ウジェーヌ・アジェ(1857-1927)

フランス生まれ。19世紀末の消えゆくパリの街並みや人々の暮らし、建築物の内部の装飾の詳細部分などを撮影し、画家たちのための資料として販売する。これら生計のために記録した約8000枚の写真は、晩年、マン・レイに認められ、ベレニス・アポットによって世に広められた。

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月13日(火) → 2012年1月29日(日)
1月2日・3日は年始特別開館

映像をめぐる冒険vol.4

見えない世界のみつめ方

Quest for Vision vol.4 Beyond the Naked Eye

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社

今こそ私たちは、地球は丸く、太陽を中心に回っていることを理解しています。しかし、古代の人々は、世界は円盤状の大地で、その大地を中心に星々が回っている宇宙像を想い描いていました。その世界観は、ギリシャの自然哲学者の論争、ガリレオやニュートンによる地動説の確立、大航海時代の調査、アインシュタインの相対性理論など、既存の定説を覆す数々の理論とテクノロジーの発達によって劇的に変化してきました。それは、世界を一意的に表すことは不可能であり、テクノロジーの進化や観測の積み重ねによって理解可能な世界は広がり、人々が思い描く世界の形も作り変えられていくことを表しています。本展は、平成20年度より開催している「映像をめぐる冒険」シリーズ第4弾として、「拡大と縮小」をコンセプトに、見ることのできる領域の拡大と世界の見方をテーマにした展覧会です。人間の世界観や視覚体験に変革をもたらしてきた貴重な資料や当館収蔵作品とともに、新たな世界の見方を提案する市川創太、小阪淳、鳴川肇の作品を展示します。約60点の資料や作品を通じて、過去から未来へと繰り返される世界の見方が変わる瞬間のときめきを、実感できることでしょう。

天動説



『プトレマイオスのアルマゲスト概要』レギオモンタヌス著 1496年 初版 (京都産業大学図書館所蔵)

古代ローマの哲学者プトレマイオスの天体図。中心に地球があり、その周りを12星座が回っている図。天動説時代の天文学書として15世紀頃まで利用されてきた。

地動説



『天文対話』ガリレオ・ガリレイ著 1632年 初版 (大阪市立科学館所蔵)

ガリレオが、自身の天体観測から確信に至ったコペルニクスの地動説を、当時広く信じられた天動説と対比しながら、対話形式で表現した本。太陽を中心とした惑星の配置図が描かれている。



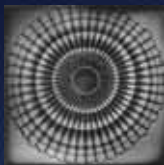
*1



*2



*3



*4

- *1 「望遠鏡」脚付 年代不詳
- *2 大日本「顕微鏡(真鍮)」明治時代
- *3 NASA「宇宙への旅—25年の歴史」1991年
- *4 ウィリアム・ベンジャミン・カーター「ウニのとげの断面」1848-49年



〈VIT (Ver.1.5)〉小阪淳 2009年

小阪 淳

こさか じゅん、1966年生まれ

1994年-2000年SFマガジン(早川書房)装画担当。2000年-2004年、2010年〜現在 朝日新聞にビジュアル連載。2004年沖縄市ワンダーミュージアムに作品常設。国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト(4D2U)に参画。2006年Sony Explora Science(北京)に4作品常設。文部科学省『一家に一枚宇宙図2007』制作に参加。2007年カンヌ国際広告祭2007Cyber Lions 銅賞受賞。2010年東京書籍『宇宙に恋する10のレッスン』出版(共著)。美術、建築、グラフィック、ウェブなど横断的に活動している。

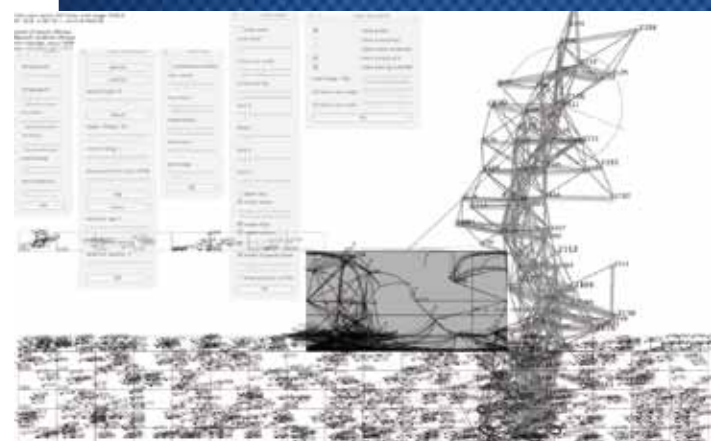
<http://www.jun.com/>

doubleNegatives Architecture [dNA]

ダブルネガティブス アーキテクチャー

98年に建築家市川創太を中心に結成された建築グループ。プロジェクトごとに異分野の専門家メンバーを編成し、多様なメディア、プラットフォームを横断しながら建築のビジョンを提示している。2005年から展開中の〈Corpora〉プロジェクトは、07年に山口情報芸術センターにて〈Corpora in Si(gh)te〉として拡張、新作発表した。このインスタレーションは08年ベネチア・ビエンナーレ国際建築展でハンガリー国代表として出展されるなど、世界6都市で公開されている。多摩美術大学Algorithmic Wall, BAU advertising office、アーティスト中谷美二子とのコラボレーション「MU: Mercurial Unfolding」など。

<http://doubleNegatives.jp>



〈corporate eye〉doubleNegatives Architecture (2009年参考イメージ)

鳴川 肇

なるかわ はじめ、1971年生まれ

2001年VMX Architects入社。2003年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2009年AuthaGraph株式会社設立。同年、CC「オープン・スペース 2009」において面積が極力正しい独自の長方形世界地図、「オーサグラフ世界地図」を初公開。2011年6月、日本科学未来館にて基本設計、実施監修に携わったつながりプロジェクトが公開。桑沢デザイン研究所、東京造形大学非常勤講師。

<http://www.authagraph.com/>



〈AuthaGraph World Map〉鳴川 肇 2009年

❏ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00〜
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

❏ 展覧会関連イベント
※アーティストトーク等、その他のイベントにつきましては決定次第ホームページで発表します。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

10月29日(土) → 11月20日(日)

写真新世紀 東京展 2011

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2011

 入場無料 主催：キャノン株式会社 共催：東京都写真美術館

キャノンが文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、1991年に公募をスタートして以来、これまでに国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出、新人写真家の登竜門として広く知られています。

今年は第34回目の公募を実施、応募者1,305名の中から厳正な審査を経て、優秀賞5名と佳作20名が選ばれました。「写真新世紀 東京展 2011」では、それら受賞作品を展示する他、昨年のグランプリ受賞者である佐藤華連氏の新作個展もご紹介します。フレッシュで力強い受賞作品の数々をお楽しみください。

◎お問い合わせ≫ キャノン(株)写真新世紀事務局 03-5482-3904



写真新世紀 東京展 2011 展示風景より

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

10月8日(土) → 10月23日(日)

第22回日本写真作家協会会員展 第9回JPA公募展 入場無料 主催：日本写真作家協会 共催：東京都写真美術館

今年で22回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による作品204点が出展されます。また、第9回目となる公募展には全国の応募作品から選ばれた入賞・入選作188点を展示いたします。

◎お問い合わせ≫ 一般社団法人日本写真作家協会 03-3535-6251

第4回恵比寿映像祭開催期間：2012年2月10日(金)～2月26日(日)※月曜休館
入場無料(定員制のプログラムは一部有料)

恵比寿映像祭は、映像表現の可能性を、芸術の視点からあらためて捉えてみよう!と試みるユニークな映像の国際フェスティバルです。年に一度、東京都写真美術館全館と恵比寿地域を拠点に、展示、上映、ライブ・イベント、講演、トーク・セッションなどを複合的に行うことを通じて、映像分野における創造活動の活性化と、優れた映像表現やメディアの発展を過去から現在そして未

来へといかに継承していくかという課題について考える場となることを目指しています。第4回の本年度は、開催期間が従来の10日間から15日間へと拡大されます。総合テーマおよび出品作家は10月下旬頃に、チラシおよび公式ホームページにて発表します。

恵比寿映像祭公式ホームページ www.yebizo.com**2F**

2階展示室 Exhibition Gallery

3月6日(土) → 5月6日(日)

**ポール・ゲッティ美術館コレクション展
フェリーチェ・ベアトの全貌** (仮称) 一般 800(640)円 学生 700(560)円 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞 協賛：東京都写真美術館支援会

戦場写真のバイオニアにして、1863年から約15年間にわたって幕末・明治期の日本各地の風景や風俗などを写真におさめたフェリーチェ・ベアト。本展は、世界有数のベアトコレクションを誇るポール・ゲッティ美術館所蔵のオリジナル写

真作品と資料を日本で初公開するとともに、当館所蔵品をあわせて120点余りの作品を展示。幕末期のアジアを駆けぬけた、日本の写真史に欠かすことのできない写真家の全貌に迫ります。

フェリーチェ・ベアト「長弓を持つ侍」1863年

**3F**

3階展示室 Exhibition Gallery

3月6日(土) → 5月6日(日)

幻の写真家・堀野正雄展 (仮称) 一般 700(560)円 学生 600(480)円 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

 主催：東京都 東京都写真美術館

日本の近代写真史に重要な位置を占める新興写真の旗手として、近年、多分野の研究者に注目される堀野正雄。本展は、遺族の所有する初公開のオリジナル・プリントと

関係資料約200点を展示する初めての展覧会です。幻といってもよい堀野の全貌を明らかにすることで、1930年代を中心とする写真史に新たなヴィジョンを構築します。

《風(2)》1930年代



Film 『マイブリッジの糸』

Aプログラム 『マイブリッジの糸』+メイキング
Bプログラム 『マイブリッジの糸』+NFB作品集+山村浩二作品集

ポリゴン・ピクチュアズ、ヤマムラアニメーション
Muybridges-strings@ppi.co.jp

○上映スケジュール：2011年9月17日(土)～10月7日(金)
月曜休映(祝日の場合は翌日休映) ※詳細はホームページをご覧ください。

Film 『第2回東京ごはん映画祭』

すべてのFOOD LOVERSに贈る映画祭

もう一度、スクリーンで観たい!そんな願いに応え、
『人』と『食』のつながりをたっぷり味わえる『おいしい映画』16作品を一挙上映。みなさんの良いごはんの時間のために、この映画祭を贈ります。

○上映スケジュール：
2011年10月8日(土)～10月23日(日)
○休映日：10月11日(火)、10月17日(月)
○料金：一般・学生1,500円/1作品につき

第2回ごはん映画祭事務局(スタイルジャム)
03-5771-3566
【映画公式ホームページ】
http://tokyogohan.com/filmfestival/



Film 『僕たちのバイシクル・ロード～7大陸900日～』

自由を連れて、旅に出よう。

英国の大学を卒業したばかりの従兄弟ジェイミーとベンが、海路と自転車での“7大陸走破”に挑戦!自らの監督・脚本・撮影のもと、3年間にわたる波乱万丈の旅を描いた感動のドキュメンタリー。

○上映スケジュール：
2011年11月3日(木・祝)～
○休映日：毎週月曜日及び11月11日(金)
○料金：一般1,800円/学生1,500円
○上映時間：未定

エデン 03-5355-5792
【映画公式ホームページ】
http://www.bicycleroad.jp



©2010 THE END PRODUCTIONS Ltd.

カフェ 『シャンブル クレール』

営業時間 10:00-20:00
◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

香り豊かなホップと程良い苦みが特徴の直輸入ベルギービール。ビールにあったフードも充実しています。
サンフーヤン セゾン
750ml 2,200円(税込)



ミュージアムショップ 『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00
◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

フレーム型の写美オリジナル・マグネット。お好きな写真やカードを、手軽に楽しく飾れます。

3種類セット 630円(税込)



友の会 Support

展示会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費

個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with columns: 友の会特典, 特典内容. Includes items like 収蔵展・映像展 (無料), 企画展・誘致展 (割引), ミュージアムショップ (5%引き), その他.

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including: 特別賛助会員 (カシオ計算機, キヤノン, 資生堂, ニコン), 特別支援会員 (カトーレック, キヤノンマーケティングジャパン, 大日本印刷, etc.), 支援会員 (I&S BBDO, アイテム, 葵プロモーション, etc.), and a long list of other member companies.

(株)=株式会社、(有)=有限会社、(社)=社団法人、(学)=学校法人

(平成23年8月現在・五十音順)